

# シラバス

科目名	財務会計 I	単位数	4 単位	学年・学科	1 学年 会計科	展 開	必修
教科書名	実教 708 財務会計 I			副教材名	最新段階式 簿記検定問題集1級会計		
科目の目標	(1) 財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業を分析する力を養う。 (3) 会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 (4) 実習販売会における取り組みを通じて、簿記に関する理論的な知識と技術を実務と関連付け学ぶことができる。						
学習内容と進め方	・株式会社の会計へと進み、財務諸表の作成や会計処理の方法を学習する。 ・簿記と科目関連系して、集中的に簿記の学習を行う時期があります。						
学習の留意点	・株式会社の会計の基本を徹底的に身につけ、より発展的な内容につながるように留意する。 ・問題演習を繰り返し解き、生徒自ら積極的に学ぶ姿勢を重視する。						
月	単 元	予定 時数	具体的な学習内容	評価の観点			備考(評価項目)
				1	2	3	
4	第1編 財務会計の基礎 企業と会計 企業会計制度と会計法規	5	・企業会計の意味と役割、財務会計の機能、株式会社の基礎的会計処理 ・会計公準、簿記・会計の発達の歴史、企業会計制度の意味 ・企業会計原則、財務諸表の種類	○			・会計の意味や機能を理解したか ・財務会計の役割について理解したか ・企業会計原則の適用例について理解したか
5	第2編 貸借対照表 貸借対照表のあらまし 資産の意味・分類・評価	40	・貸借対照表の意味と役割(販売実習会での財務諸表) ・貨幣性資産と費用性資産の概略 ・営業循環基準と1年基準 ・当座資産の意味、現金預金、銀行勘定調整法、受取手形・電子記録債権・売掛金・クレジット売掛金・有価証券の期末評価	○	○		・貸借対照表の役割と区分等を理解したか ・資産の意味、分類、評価を理解したか
6	流動資産PART 1 当座資産 流動資産PART 2 棚卸資産・その他の流動資産 固定資産PART 1 有形固定資産		・棚卸資産の意味、取得原価と費用配分の原則、払出価額と期末棚卸高の計算方法、売価還元法の計算方法、その他の流動資産 ・有形固定資産の意味、取得原価、資本的支出・収益的支出、期末評価における減価償却の役割およびその計算方法等、固定資産の除却と買い替えの記帳	○	○		・当座資産の意味を理解したか ・銀行勘定調整法が作成できるか ・棚卸資産とその他の流動資産を理解したか ・適切な会計処理ができるか ・有形固定資産の意味を理解したか ・棚卸資産の取得原価と費用配分の原則、資本的支出と収益的支出を理解したか ・リース取引の意味と種類を理解したか
7	固定資産PART 2 無形固定資産 固定資産PART 3 投資その他の資産		・リース取引の意味、ファイナンス・リース取引における利子込み法と利子抜き法、リース資産の取得、リース料の支払い、減価償却の記帳 ・無形固定資産の意味、取得原価、期末評価 ・投資その他の資産の意味と種類、期末評価	○	○		・無形固定資産の意味を理解したか ・投資その他の資産の意味を理解したか
8	負債の意味と分類 流動負債		・負債の意味、分類 ・流動負債の各項目の内容、未払金と未払費用、前受金と前受収益の差異、引当金の意味と評価性引当金・負債性引当金の区別	○	○		・負債とはどのようなものかを理解したか ・流動負債の意味を理解したか
9	固定負債		・固定負債の各項目の内容、長期借入金とリース債務、退職給付引当金偶発債務の意味	○	○		・固定負債の意味を理解したか
10	純資産の意味と分類 資本金 資本剰余金 利益剰余金 自己株式 新株予約権		・純資産の意味と分類、株式会社の株主資本の分類、内容 ・株式会社の資本金の意味と計算、資本金の増加・減少 ・資本剰余金の意味、資本準備金、その他資本剰余金、会社の合併 ・利益剰余金の意味、計上基準、任意積立金、繰越利益剰余金、配当 ・自己株式の意味、取得・処分・消却 ・新株予約権の意味、新株予約権の発行・行使	○	○	○	・純資産とはどのようなものかを理解したか ・純資産の分類について理解したか ・資本剰余金の意味を理解したか ・利益剰余金の意味を理解したか ・自己株式の意味を理解したか ・新株予約権の意味を理解したか
11	貸借対照表の作成 第3編 損益計算書 損益計算書のあらまし 損益計算の意味と基準 売上高 売上原価、販売費及び一般管理費	40	・貸借対照表作成上の諸原則、注記 ・損益計算書の意味と役割(販売実習会での財務諸表) ・財産法と損益法、3つの認識基準、測定基準、費用収益対応の原則 ・売上高の意味、計上基準、工事収益の計上基準 ・売上原価、販売費及び一般管理費の意味、売上総利益、営業利益	○	○	○	・報告式の貸借対照表を作成できるか ・損益計算書の役割と区分等を理解したか ・損益計算の意味と基準について理解したか ・売上高の意味を理解したか ・売上原価等の費用を理解したか
12	営業外費用・営業外収益 特別利益・特別損失 損益計算書の作成 その他の財務諸表		・財務活動から生じる営業外収益・営業外費用の内容、経常損益の概念 ・特別利益・特別損失の意味、当期純利益の概念を理解させる ・損益計算書作成上の諸原則、注記 ・株主資本等変動計算書、注記表、附属明細書	○	○	○	・営業外収益と営業外費用を理解したか ・特別利益と特別損失の意味を理解したか ・報告式の損益計算書の作成できるか ・株主資本等変動計算書等のその他の財務諸表を理解したか
1	第4編 その他の会計処理 役務収益・役務原価 外貨建取引 税効果会計	20	・役務収益・役務原価の意味と会計処理 ・外貨建取引の意味、円換算、為替予約 ・税効果会計の意味と役割、	○	○	○	・役務収益と役務原価の意味を理解したか ・外貨建取引等の意味を理解したか ・税効果会計の意味を理解したか
2	第5編 財務諸表の活用 財務諸表のディスクロージャー	20	・企業と利害関係者およびディスクロージャー ・財務諸表分析の意味、関係比率法・構成比率法・趨勢法・実数法	○	○	○	・ディスクロージャーについて理解したか ・財務諸表分析の意味と方法を理解したか
3	財務諸表分析 連結財務諸表のあらまし 発展編 連結財務諸表の作成 連結財務諸表の作成	15	・連結財務諸表の意味、親会社と子会社の意味、連結財務諸表の重要性 ・連結財務諸表の作成手続き ・開始仕訳、のれんの償却、非支配株主に帰属する当期純利益の計上、親会社と子会社相互間の債権・債務の相殺消去、親会社と子会社相互間の仕入と売上の相殺消去、未実現利益の消去、子会社の配当金の修正について理解させる。 ・連結精算表の作成	○	○	○	・連結財務諸表や親会社と子会社について理解したか ・開始仕訳や連結修正仕訳ができるか ・連結精算表を作成できるか
評価方法	(1) 評価の観点については、下記のとおりとする。 (2) 具体的な内容として、定期考査、単元テスト、日常の演習、問題集の取り組み状況、その他提出物、学習意欲などから評価を行います。						
評価の観点	観点	趣旨					
	1. 知識・技術	企業会計の意味と役割、基本的な会計処理について理解しているか					
	2. 思考・判断・表現	基本的な会計処理の方法を身につけているか					
評価基準	3. 主体的に学習に取り組む態度	各種提出物やテストへの取り組み方など、内面的な成長と積極的な科目への関わりが見られるか。					
	1. 知識・技術	A 企業会計の基本的な会計処理に関する知識、技術が身についている。 B 企業会計の基本的な会計処理に関する知識、技術が概ね身についている。 C 企業会計の基本的な会計処理に関する知識、技術が身につけていない。					
	2. 思考・判断・表現	A 企業会計の基本的な会計処理に関する知識、技術を使い、さまざまな諸問題を解決する力が身についている。 B 企業会計の基本的な会計処理に関する知識、技術を使い、さまざまな諸問題を解決する力が概ね身についている。 C 企業会計の基本的な会計処理に関する知識、技術を使い、さまざまな諸問題を解決する力が身につけていない。					
3. 主体的に学習に取り組む態度	A 企業会計のさまざまな諸活動について関心を持ち、自ら学ぶ姿勢や知識技術の習得を目指し、主体的に取り組める。 B 企業会計のさまざまな諸活動について関心を持ち、自ら学ぶ姿勢や知識技術の習得を目指し、主体的に概ね取り組める。 C 企業会計のさまざまな諸活動について関心を持ち、自ら学ぶ姿勢や知識技術の習得を目指し、主体的に取り組めない。						